牛の博物館第24回企画展

「牛と鬼」



目次

角をいだく生物 …… 2
鬼とは何者か …… 6
十二支と鬼門 …… 11
浮世絵に描かれた鬼 …… 13
牛鬼 …… 17
資料一覧 …… 19

The Cattle Museum
牛の博物館



木瓜子天王 御影札

奥州市江刺区

奥州市江刺区岩谷堂の木瓜子天王のお札です。図案は天台宗の元三大師の鬼大師御影札となっています。

鬼の頭に生えた角が牛角であることから、牛頭天王と習合し、版木が流用されたものと考えられます。

ごあいさつ

中国の鬼は、死者の魂または亡霊を意味しますが、日本における鬼は、平安時代以降、仏教・道教・陰陽道・修験道などから様々な影響を受け、さらに物語や説話文学、民間の昔話などの口承文芸に取り入れられるなかで、姿を変えていきました。現在は牛の角を持ち、虎皮の腰巻をまいた姿かたちが定着しています。

想像上の生き物である鬼は、なぜ人と似た外見をもち、ウシ科動物と共通する角をもつのでしょうか。

本展では、角をきっかけに、牛と鬼の関わりを探り、人と牛との精神的なつながりを探ってみたいと思います。

最後に、本企画展開催に当たりご協力をいただきました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

平成28年7月

牛の博物館
館長 内田 宏

角をいだく生物 －鬼は人か動物か－

角を持つ動物は、現生の哺乳類では、ウシ科、シカ科、プロングホーン科、キリン科、サイ科が知られ、私たち人間が含まれるサル目ヒト科には角のある動物はいません。しかしながら、人間に近い姿形をもち、他界に住む角を持つものの存在を私たちの祖先は感じ取ってきました。

稲作や農耕を営む民にとって、山は日常生活が営まれている里とは異質な空間です。精霊や神々が住む聖地として崇められる一方で、死霊や祖霊が住むとして恐れられ、天上や地下に想定された他界への通路でもありました。山の中でも、時に雲に隠れる峰や山頂近くの高い木、火口や断崖、洞窟などは、聖地でも俗域でもないどっちつかずの境界として恐れられ、半ば動物の世界に属する境界的性格を持つ鬼や天狗などの怪物や妖怪がそこに住むとされました。「鬼」や「悪魔」の頭に生えた角、天狗の背中に生えた羽などは、人に在らざるモノの象徴であるといえ、日本のみならず、角の生えた精霊や悪魔の信仰や伝承が世界各地にみられます。人間は、武器となる角も牙も鋭い爪も持っていないため、異界との境界に住む動物のそれらの特徴を加えることで人ではない境界の生物として、鬼の姿を具現化したものと思われます。現在のこの日本の鬼の姿は、平安時代後期ごろに形成されたものと考えられています。当初の鬼は角を持っておらず、祖霊や地霊などカミと一体化した存在でした。


大峰山役行者画像（部分）
えさし郷土文化館所蔵

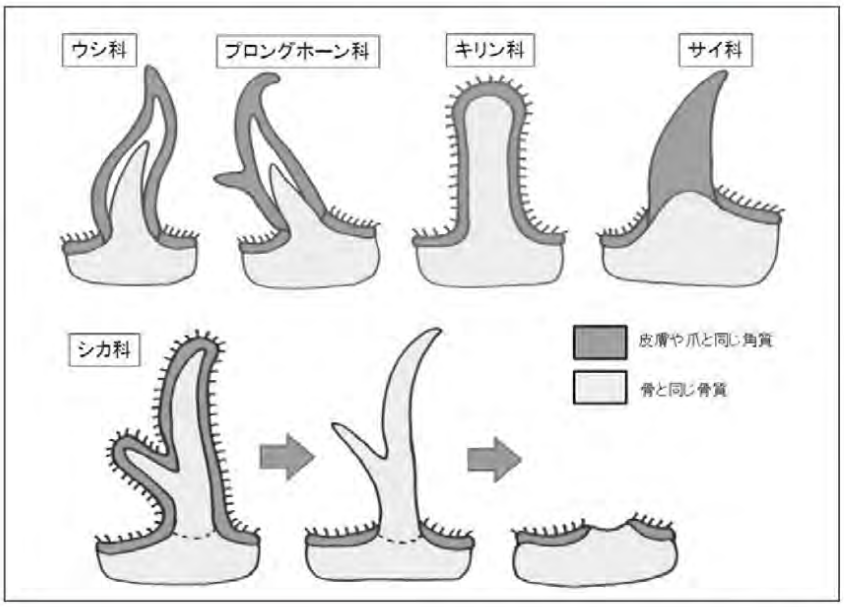

ウシ科（口之島野生牛）


プロングホーン科（プロングホーン）
写真：東京動物園協会提供


シカ科（ニホンジカ）
写真：東京動物園協会提供


サイ科（クロサイ）
写真：東京動物園協会提供


キリン科（キリン）
写真：東京動物園協会提供



現生哺乳動物の角

最近では、DNA解析などによる分子系統学の発達により、鯨偶蹄目とする分類が置かれることも多くなってきていますが、その中で角を持つグループは、ウシ科、シカ科、プロングホーン科、キリン科であり、反芻を行う草食動物です。その他、奇蹄目であるサイ科が、骨組織を持たず皮膚組織が角質化した角を持っています。

角の役割は、昔からさまざまな解釈がされてきましたが、基本的に草食動物の武器であることは疑いもありません。外敵にも向けられますが、シカ科ではトナカイなどの例外を除き、雌が角を持たない種が多いことから、角は主に雄同士が雌を争うための武器であると考えられています。

■ウシ科の角

ウシ科動物の角は洞角と呼ばれ、角芯という骨の突起を角鞘というさやがおおっています。角鞘は爪や毛髪と同様の角質（ケラチン）と呼ばれるタンパク質からできていて、根本から少しずつ成長していきます。季節によって角の成長の速さが変わるので、角の表面には年輪のように角輪と呼ばれる輪が刻まれていきます。角芯は頭の骨の一部なので角は一生落ちません。

■シカ科の角

シカ科の角は枝角と呼ばれ、先が枝分かれする点が特徴です。また、角全体が生え変わるという点でも独特で、毎年春に新しい角が生え始めます。袋角（ベルベット）という細かい毛が生えた皮膚の中で角が育ち、その中で毛細血管がカルシウムを運んで角を成長させます。成長途中の袋角は中に血液が通っていて柔らかいので、この時期のシカは物をぶつけたりしないように注意深く角を扱います。角が一定の大きさになると成長は止まり、角をおおっていた皮膚がはがれ、角芯がむきだしになって枯角と呼ばれる状態になります。角芯が完全に露出するのもシカ科の角の特徴です。



[ウシ科]
ウシ頭蓋骨



[シカ科]
ニホンジカ頭蓋骨



[キリン科]
キリン頭蓋骨

■キリン科の角

キリンの角は骨角（ほねづの）といい、頭のてっぺんに１対の短い角を持っています。個体によってはこの角の前後にさらに１～３本の角が生えるものもいます。生まれた時には軟骨の角が頭の骨の上で横倒しになっていますが、１週間ほどでしっかり直立します。頭蓋骨からはなれていた角は成長するに従って骨と一体化していきます。キリンの角は一生表面を皮膚と毛におおわれています。



鬼のミイラ写真　村田町歴史みらい館提供



[プロングホーン科]
プロングホーン頭蓋骨



[サイ科]
シロサイ頭蓋骨写真
（国立科学博物館提供）

■プロングホーン科の角

プロングホーンはウシ科とシカ科の中間的な角のつくりをしています。骨質の角芯（かくしん）をおおって角質の角鞘（かくしょう）が成長していく点はウシと同じです。冬になると、さや状の角鞘の成長が止まり、内側の角芯を残して外側の角鞘だけが抜け落ちるのはシカに近い点です。春には新しい角鞘が成長し、さやがかぶった状態に戻ります。

■サイ科の角

サイの角は皮角（かわづの）といい、鼻の上に１本（インドサイ、ジャワサイ）、もしくは２本（シロサイ、クロサイ、スマトラサイ）の角を持ちます。サイの角はヒトの爪と同じ皮膚の変化した角質（ケラチン）でできており、骨格標本にすると角はなく、鼻の上は平らです。事故などで角がとれると、新しい角が成長し始めます。

鬼の角

一口に「鬼」といっても、３本、２本、１本の角を持つもの、さらには角を持たないものなど実に様々ですが、一般的には２本の角を持った姿で描かれることが多いようです。鬼の角が、異界との境界に住む「動物」の特徴を取り込んだものであることは、先に述べたとおりですが、どの動物の角を頭にいだいているのでしょうか。

宮城県柴田郡村田町には、鬼のミイラと呼ばれる頭蓋骨と手が伝えられています。このミイラと現世哺乳類の角の特徴を比較してみましょう。

まず、骨質の角芯を有していることから、皮膚が角質化したサイ科の角とは明らかに異なってることが分かります。まだ角が短い為とも考えられますが、角芯が枝分かれしていません。その表面をみると、どうやら角芯がむき出しになるシカ科の枯角とは異なり、角鞘が抜けた状態のようです。

このミイラでは頭蓋骨から角芯が生えています。キリン科の場合、幼獣の場合は角芯が頭蓋骨と分離していますが、このミイラではしっかりと癒合していることから、キリン科でもないようです。

以上の結果から、鬼はウシ科かプロングホーン科の角ということになりますが、中尊寺東谷地蔵院御影札の鬼大師に見るように鬼の角鞘は枝分かれしないようです。従って、鬼はウシ科動物と同じ洞角を持っていることになります。

なお、鬼の角は、ウシの２本の角を基本に、個体変異の範囲内で無角～３本の角を持っているようです。



蘇民祭 鬼子登り面（阿）
黒石寺所蔵



中尊寺東谷地蔵院御影札（鬼大師）
個人蔵

― 羅生門の鬼か ―「鬼のミイラ」

『源頼光が酒呑童子を討伐した後、屋敷で頼光四天王と平井保昌とともに宴を供していたところ、羅生門にも鬼がいて悪さを繰り返しているとの話が伝わった。渡辺綱は単身乗り込み格闘の末、名刀髭切りの太刀で鬼の右腕を切り落とした。

渡辺綱は逃げた鬼を追いかけて諸国を捜し歩いたが、姥ヶ懐（現宮城県村田町）に来たとき、綱の叔母に化けた鬼に腕を取り戻されてしまう。鬼は、囲炉裏の自在鉤を伝って天井の煙出しから逃げおおせた。

それから姥ヶ懐では渡辺綱の気持ちを思い、囲炉裏の自在鉤と天井の煙出しをつけなくなったという。』

この鬼のミイラは商家の蔵から発見されましたが、記録は何も残されておらず、詳細は不明といいます。鬼が逃げるときに左手をついたという石が現在も祀られています。

ウシにも無角和種など角のない品種が存在するほか、３本の角を持つ個体が確認されています。このウシの３本目の角がなぜできたのかは分かっておらず、染色体にも他のウシとの違いは見つかっていません。ホルモンバランスが崩れると角が多く作られることがあり、おそらくは個体発生の段階で何らかの要因で器官形成の調和が崩れ、三本目の角が発現するに至ったと考えられています。



ウシ（３本角）頭蓋骨

鬼とは何者か - 多様な鬼の姿 -

鬼は、人々に危害を加える邪悪な霊や死者のイメージを基本としながら人々に祝福をもたらす属性を併せ持った人格的な存在です。日本語のオニの語源については、隠が変化したという説の他、陰・兄の語からの転訛説があります。折口信夫は、古代の和語の段階では、カミとオニは同義であり、時代の変化の中で、恐怖のイメージや悪の性格のみがオニに集約されたとの説を提唱し、民俗学の定説として大きな影響を与えました。

やがて仏教、道教、陰陽道、修験道などから様々な影響を受け、さらに物語や説話文学、民間の昔話などの口承文芸に取り入れられる中で、鬼の形象や性格は多彩な展開を遂げています。

ここでは、鬼を５つに分類し、鬼とは何者なのかを探り、その画像からウシとの関わりも探ります。

■民俗学上の鬼

祝福に訪れる祖霊や地霊など、カミと一体化した鬼で、日本の鬼の最古の原像と考えられます。

京都太秦の広隆寺境内大避神社の祭礼である牛祭は、土地の精霊が寺社を祝福にやってくる形を基にしたものとみられ、四天王と呼ばれる白衣・白袴の赤鬼と青鬼二人ずつがウシに乗った魔多羅神と共に現れ、祭文を読み上げます。魔多羅神は、最澄が崇敬したというインド伝来の神で、航海安全と五穀豊穣の守り神です。

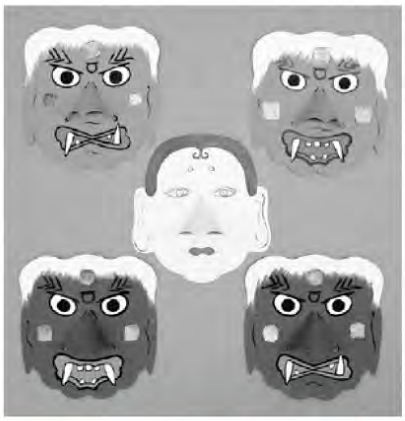
岩手県内８か所で行われている蘇民祭では、その祭りの中で、鬼の面を背中に付けた子供が庫裏から本堂へと登る鬼子登りが行われています。奥州市水沢区の黒石寺の蘇民祭では、朝の４時頃、麻の衣を付け、鬼の面を逆さに背負った７歳の男の子２人がウチコと呼ばれる氏子２人に背負われて庫裏から本堂へと登ります。鬼子に登れば丈夫に育つと信じられており、鬼子は山の神の象徴とも、十二神将を象徴するものだともいわれ、かつては鬼面が12面でたといいます。別当が餅と洗米を撒き、



牛祭（大避神社）



蘇民祭鬼子登り（黒石寺）



牛祭の面（摩多羅神・四天王）



蘇民祭 鬼子登り面
伊手熊野神社所蔵

鬼子が松明を巡ると、蘇民袋が持ち出されて駒木と袋の争奪戦が始まります。

■修験道系の鬼

山人系、修験道系の鬼は、役小角に退治されて従者となった吉野の前鬼・後鬼をはじめ、山を住処とする大人・山姥・天狗などが含まれます。

里に住む多くの日本人にとっての山は、死霊が戻る世界であり、神が降臨してくる霊場であり、山の神・水分神が支配する生命の源でもありました。一方、里の境界の外に住み、支配の網から逸脱した山人（山から山を渡り歩いた猟師、木地師、タタラ師など）は、里人から鬼と恐れられ、天狗や山男、山姥などの山怪とひとくくりにされて忌避されました。山人の生活等の実態については明らかではありませんが、その変容像とされる前鬼・後鬼が修験道開祖の役小角につき従っていたという伝説や小角が金を求めて各地の山を歩いたという伝説は、日本の山岳宗教が山人との深い結びつきのうえに成立してきたことを物語っています。



大峰山役行者画像
えさし郷土文化館所蔵



鍛冶神(三宝荒神)画像
個人蔵



天狗面（猿田彦命）
月山神社所蔵



天狗面（猿田彦命）
白山神社所蔵

なお、現在各地の祭礼で神幸祭の行列を先導している天狗は、猿田彦命であり、天孫降臨の際に道案内をした神を現しています。もともと天狗と猿田彦は別のものでしたが、長い鼻に真っ赤な顔という風貌から、天狗面が猿田彦に用いられるようになったものです。

■仏教系の鬼

邪鬼・夜叉・羅刹・地獄卒・牛頭鬼・馬頭鬼など仏教の因果応報の観念や地獄観が浸透する中でポピュラーになった鬼たちです。

邪鬼は、仏教では仏法を犯す邪神として仁王像や四天王像の足の下に踏まれ懲らしめられている小型の鬼として表現されています。



毘沙門天に踏まれる邪鬼
小名丸毘沙門堂所蔵



地獄極楽図
個人蔵



地獄図（十王図）　中国
個人蔵

仏教経典による地獄の様を描いた地獄極楽図には、生前の悪行により地獄に落ち苦しむ人々の姿と、そうした人々を責める地獄卒が鬼の姿で描かれています。上部には、地蔵尊が描かれ、地獄にあっても救いがあることが示されています。孝子善之丞感得傳は、江



孝子善之丞感得傳　　個人蔵

元三大師の御影札

天台宗の寺院から配布される豆(魔滅)大師、鬼大師、角大師などと呼ばれる御札があります。これは、比叡山中興の祖とされる第18代天台座主であった良源〔延喜12～永観３年（912－985)、諡号＝慈恵大師、通称＝元三大師〕の姿を描いたとされるもので、魔除け、五穀豊穣、商売繁盛に効く御影札です。

良源には姿を変化して衆生を救うという伝説が数多く残されています。角大師は、自らを犯した疫病神を追い払った後に鏡に映した自らの姿を鬼の姿に変化させ、その姿を弟子に写し取らせたとされるもので、戸口に貼れば災厄からも逃れられるといいます。鬼大師は、女官に好意を寄せられた際、自他ともに魔道におちることを恐れて鬼と化し、女官を遠ざけたとされるもので、角大師と同じく魔除けの御札です。茨城県羽黒町の月山寺の角大師の御影札は宝珠をいだいておりこの２つの御札は同種のものと考えることが出来ます。これらの御札に描かれた鬼の角はウシの角のようです。豆大師は、良源の姿を33体表したもので、良源が観音の化身ともされたことによります。



慈恵大師御影札
〔比叡山四季講堂〕
（個人蔵）



豆大師(魔滅大師)御影札
〔比叡山四季講堂〕
（個人蔵）



鬼大師御影札
〔比叡山四季講堂〕
（個人蔵）



角大師御影札
〔比叡山四季講堂〕
（個人蔵）



角大師御影札
〔月山寺（茨城県羽黒町)〕
（個人蔵）



鬼大師御影札
〔中尊寺大長寿院〕
（個人蔵）



鬼大師御影札
〔中尊寺地蔵院〕
（個人蔵）



角大師御影札
〔満福寺（岩手県平泉町)〕

戸時代の感化本で、奥州伊達郡南半田村（現福島県伊達郡桑折町）の松野善之丞という孝行息子が地蔵に案内されて地獄と極楽を巡る体験記ともいうべきものです。挿絵には、牛頭鬼・馬頭鬼のほか頭に角を生やした地獄卒が描かれています。

このような絵画資料により、日本独自の善悪や道徳的な価値観が醸成されるとともに、鬼の外観のイメージも定着していったものと思われますが、中国の地獄絵に描かれた地獄に牛頭鬼は描かれていますが地獄卒には角がありません。頭に角が生えた鬼の姿は日本独自のものであることが分かります。



鬼童丸



般若面
北上市立鬼の館所蔵



岩崎鬼剣舞亡者面
北上市立鬼の館所蔵

■人鬼系の鬼

人生体験の後に自ら鬼になった放逐者や賤民、盗賊に属するものです。盗賊の頭目としての大江山の酒呑童子やその子供ともされる鬼童丸が分類されます。

■変身譚系の鬼

怨恨、憤怒、雪辱などの情念をエネルギーとして、復讐を遂げるために鬼となるものを選んだ者です。愛執(あいしゅう)や憎悪に苦しむ死霊や生霊が鬼になるという伝承は広く、平安時代の御霊信仰をはじめ、鉄輪の女などの説話は、能や歌舞伎の題材にもなり、鬼と化した怨霊の模範となりました。対処方法としては、一方的に退治して排斥するのではなく、鬼の苦しみに共感しつつ慰霊に努めることが必要とされます。

■海外の角を持つ神々

海外においても、邪神、魔神など



邪神面
北上市立鬼の館所蔵



コーラ族儀礼面(ﾒｷｼｺ)
北上市立鬼の館所蔵



ボグド山の主（ﾓﾝｺﾞﾙ）
北上市立鬼の館所蔵



魔神面（グァテマラ）
北上市立鬼の館所蔵

どを表した儀礼面には角が生えたものが数多くみられます。角は、人間が持たない自然＝異界の力の象徴と考えられます。

十二支と鬼門 －丑寅の狭間に潜む鬼－

現在の日本でも自分の生まれ年の十二支の動物を言える人は数多くいます。年賀状のデザインもその年の動物の図柄であることが殆どで、年の暮れには、次の年の十二支の動物にちなんだデザインの置物が街中にあふれています。十二支＝十二支の動物（十二獣）といった感がありますが、実は十二支（子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥）と十二獣（鼠牛虎兎竜蛇馬羊猿鶏犬猪）は別のものです。

ここでは、丑寅の境が鬼門とされた理由と、鬼がなぜウシ科と同じ洞角を持つのか考察します。

■十干十二支（干支）

十二支は、順序を表す記号です。十干（甲乙丙丁戊己庚辛壬癸）と組み合わせた干支によって、最小公倍数である60を周期として日付を記述する干支紀日法は、古代中国の商（殷）代の甲骨文に現されています。

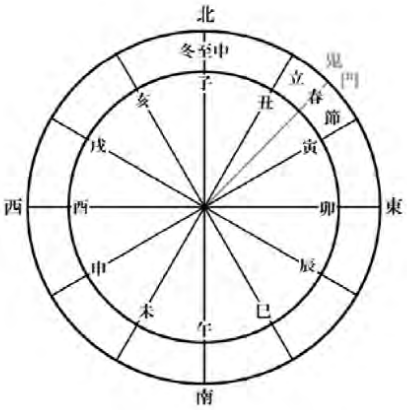
干支は、やがて月や年を表すのにも用いられるようになり、周暦では、冬至を含む建子の月が歳首月とされました。干支紀年法は数え年の61歳が生まれた年の干支に戻ることから、暦が還ったという意味で「還暦」として長寿の祝いをするなど私たちの生活に深く根付いています。

十干十二支（六十華甲）

甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未	壬申	癸酉
甲戌	乙亥	丙子	丁丑	戊寅	己卯	庚辰	辛巳	壬午	癸未
甲申	乙酉	丙戌	丁亥	戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳
甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯
甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥	壬子	癸丑
甲寅	乙卯	丙辰	丁巳	戊午	己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥



牛虎銅祭案（模型）　中国　商（殷）時代（紀元前1600～1100年）
上海博物館原資料所蔵



十二支の方位と鬼門

■立春正月と鬼門

十二支は、時刻や方位を表すためにも用いられるようになり、方位では子が北に当てられています。

周暦では建子の月を歳首月としていましたが、漢武帝の太初元年の改暦によって立春正月が定められると、丑寅の境が立春節となります。建寅の月が歳首となったことから、ここは新旧の暦が変わるところとなり、連続している人の生命に境を区切る重要な意味を持つことになりました。これが方位にあてはめられると、丑寅すなわち北東が鬼の出入りする方位として忌まれ「鬼門」と呼ばれるよう

になりました。京都御所北東の猿が辻に代表される鬼門除けは、京都では近代的なビルやマンションでも施工例を見ることができます。

■十二獣

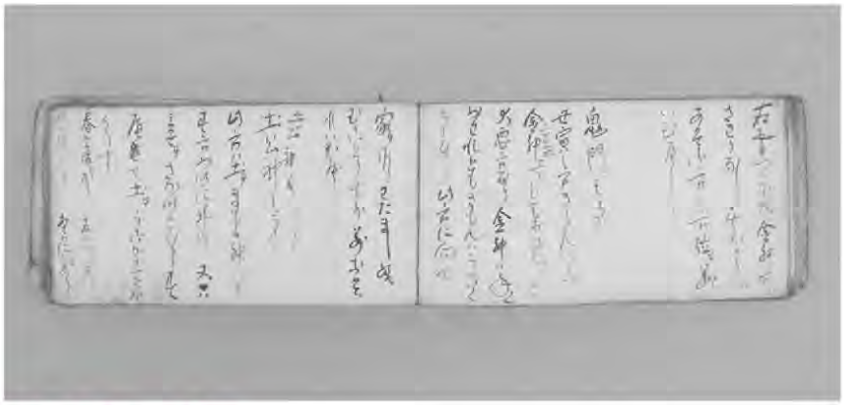
十二支に配当された十二の獣類は、インドの十二獣による月の区別が影響していると考えられています。インドでは、歳首月に夏至を含むという違いがあるものの鼠、牛、獅子、兎、竜、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪の獣類がそれぞれの月に当てられています。これを子から順に配当したことで、子と鼠、丑と牛、寅と虎（獅子）などが対応されることとなりました。

十二支に用いられた子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥という十二文字がなぜ用いられたのか不明であったこともあり、動物が配当されると、十二支そのものを十二獣の名で呼ぶようになり、図象で表されるようになりました。

十二神将は、薬師如来と薬師経を信仰するものを守護するとされる天部の武神で、薬師如来の十二の大願に応じて、十二の時、十二の月、十二の方位を守るとされています。そのため、十二支が配当されており、干支の守り本尊ともされます。平安期以降の仏像では、頭上に十二獣をいだいていることが多く、十二支が十二獣として認識されていたことがわかります。



天保新選 永代大雑書萬暦大成



永代大雑書　個人蔵

■鬼の角は牛の角

安政３年（1856）に上梓された『天保新選永代大雑書萬暦大成』には、鬼の姿を「鬼門之方位口訣」の項に以下のように解説しています。

「（略）その鬼の形は定に見たる者なし唐の呉道子始て鬼の形を描に頭に角有て腰に虎の皮を纏これ鬼門は丑寅の間なれば頭の角は丑の方の牛の角を象どり腰の虎の皮は寅の方の虎に象どる是丑寅の間を鬼門といふにもとづきて鬼の形を描き出す所なり尤画工の才といふべし後世鬼を描く事是に倣へり（以下略）」

これにより、丑に配当された牛、寅に配当された虎を象って鬼の姿が描かれたことがわかります。鬼を庶民にわかりやすく図象化するため、牛と虎の特徴を取り入れたものでしょう。

なお、呉の道子がこの鬼の姿を描いたと説明されていますが、唐の玄宗皇帝に命ぜられて道子が描いたのは、中国の道教系の神である鍾馗の姿であり、誤った伝聞となっています。牛の角を持ち虎の皮の腰巻をまいた鬼の姿は日本独自のもので、中国などでは牛頭鬼は描かれるものの獄卒に角があることはありません。日本の鬼の姿は、平安時代後期ごろ独自に形成されたものと考えられています。



毘羯羅（子/鼠）　招杜羅（丑/牛）　真達羅（寅/虎）　摩虎羅（卯/兎）　波夷羅（辰/竜）　因達羅（巳/蛇）



宮毘羅（亥/猪）　伐折羅（戌/犬）　迷企羅（酉/鶏）　安底羅（申/猿）　頻儞羅（未/羊）　珊底羅（午/馬）

木造十二神将像　黒石寺所蔵

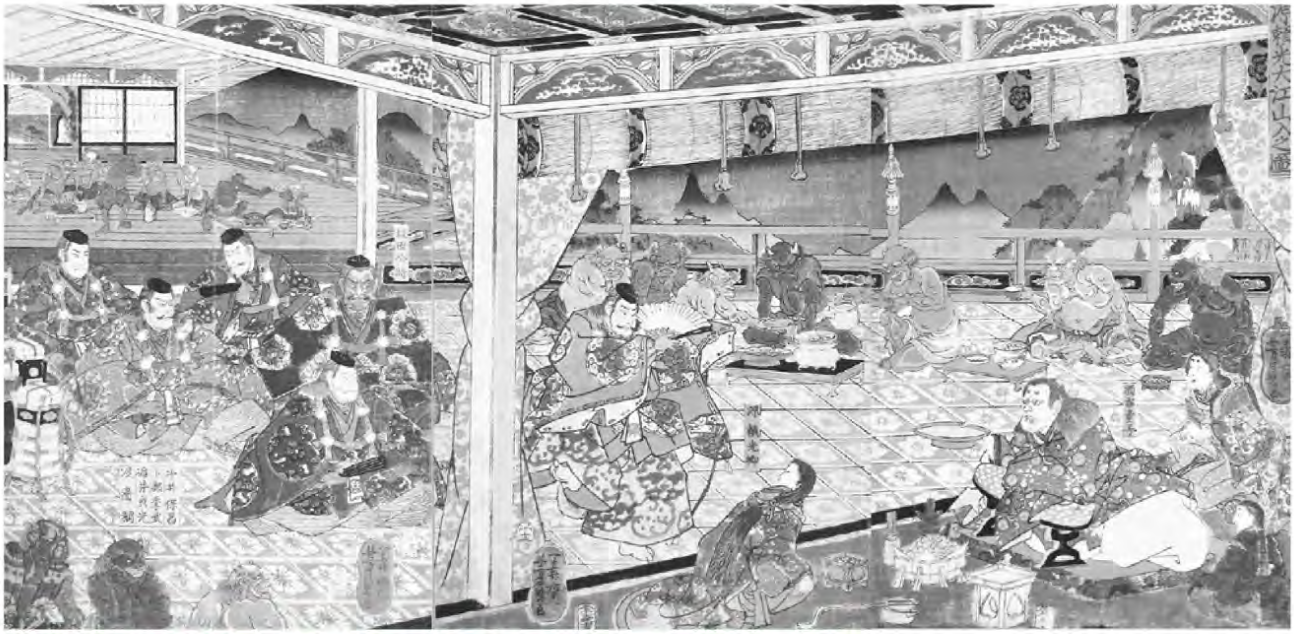
浮世絵に描かれた鬼 －可視化される鬼－

江戸時代に商業活動として出版が行われるようになると、浮世絵や木版本が庶民に親しまれるようになり、庶民が鬼の姿を見る機会が多くなったと思われます。

享保年間（1744-48）に色摺版画「紅摺絵」が創始され、明和2年（1765）に多色摺版画「錦絵」の技法が確立すると、浮世絵は町人の文化として根付き、様々な画題が描かれるようになります。浮世絵は誰もが入手しやすいアートであり、描かれた主題は美人画、役者絵をはじめ武者絵、花鳥画、風景画、さらには地域の伝説や奇譚を扱ったものなど実に様々です。それらの中には、鬼が登場するものもあり、浮世絵師の手によって恐ろしい鬼の姿が描かれました。

一方、これまで姿の見えない恐ろしいモノであった鬼が図象化されたことで、おとぎ話の桃太郎に象徴されるように、鬼は征伐、討伐される対象となっていきます。

ここでは、浮世絵などの絵画資料に描かれた鬼をとおして、牛の角を持つ鬼の姿の定着と鬼と人との関わりを探ります。



源頼光大江山入之図　歌川芳員　安政5年（1858）　北上市立鬼の館所蔵

■大江山の酒呑童子

酒呑童子は都にでては婦女や財宝を奪っていた盗賊または鬼の頭目で丹波の大江山を拠点としていました。一条天皇の勅命により征伐に向かった源頼光、平井保昌と頼光四天王（碓井貞光、卜部季武、渡辺綱、坂田公時）は旅のものを装って鬼の居城を訪ね、毒酒を飲ませて鬼を泥酔させたうえで討ち取ります。中世に流行した英雄伝説で、怪物退治譚の代表作です。

浮世絵は、歌川芳員の「源頼光大江山入之図」で、頼光が酒呑童子を討つべく大江山に入り、童子と酒をくみかわす宴の場面です。壇に童子、踊りを舞う頼光、見守る四天王、周囲には鬼が描かれています。

■藤原千方の四鬼

三重県津市などに伝えられる伝説の鬼で、太平記第十六巻に「天智天皇の御世に藤原千方と云者有て、金鬼・風鬼・水鬼・隠形鬼と云四の鬼を使へり。」とあります。金鬼は矢が通じない堅い体を



書画五十三駅 近江土山千方之邪法　歌川芳虎　嘉永5年（1852）
北上市立鬼の館所蔵

持ち、風鬼は強風、水鬼は水を操ります。隠形鬼は姿を消して敵に奇襲を仕掛けることができることから、官軍は大いに苦戦しますが、右大将紀朝雄が「草も木も我大君の国なればいづくか鬼の棲かなるべき」と呼んだ和歌を送ると、四鬼はこの歌の徳によって退散し、千方は勢いを失って討たれます。

浮世絵は、歌川芳虎の「書画五十三駅　近江土山千方之邪法」で、天智天皇の御守に臨む藤原千方と四鬼が描かれていますが、風鬼が火鬼に入れ替わっています。

■雷神

俵屋宗達の代表作、国宝「風神雷神図屏風」にも見られるように、風神と雷神は鬼の姿で描かれることが多いようです。この浮世絵は、歌川国貞の役者絵「九変化ノ内　雷　鳥羽絵　むすめ　尾上多見蔵　水中早かわり　大評判」で、へそを取ろうとする雷鬼と守ろうとする漁夫が描かれています。雷神は牛の角を生やし虎皮の腰巻をまいています。2代目尾上多見蔵は、幕末から明治初期にかけての歌舞伎役者で、怪談物や早変わりなどを得意としていました。

■狂言 朝比奈

朝比奈三郎義秀は鎌倉幕府の御家人です。大力で知られましたが、父義盛が北条氏打倒を企てて起こした和田合戦で一族が破れた後、安房国へ逃れたとされ、その



九変化ノ内 雷 鳥羽絵 むすめ 尾上多見蔵 水中早かわり 大評判
歌川国貞　天保12年（1841）　北上市立鬼の館所蔵



一魁随筆 朝比奈三郎義秀　月岡芳年　明治5年（1872）
個人蔵



源頼光朝臣丹波國市原野にて四天王の勇士をもって鬼童丸を退治するの圖　歌川国芳　天保14年～弘化４年（1843-47）



タイトル不詳（中央欠）　歌川国芳　文化12年～文政３年（1815-20）頃



和漢 準源氏 野わき 市原野鬼童丸
牛皮隠頼光貌　歌川国芳 安政2年（1855）

後の消息は不明とされます。月岡芳年による「一魁随筆　朝比奈三郎義秀」の画題となった狂言「朝比奈」は、六道の辻に出て罪人を捕らえ地獄へ責め落とそうとする閻魔大王を朝比奈三郎義秀が手玉に取り、極楽浄土へ案内させるもので、閻魔の冠を取って押さえつける様子が生き生きとえがかれています。閻魔の後ろで困った表情の獄卒がユーモラスです。

朝比奈三郎義秀が隈取のある奴のような姿で描かれているのは、歌舞伎「寿曽我対面」の小林朝比奈をモチーフにしているためです。

■鬼童丸

建長６年（1254）に成立した『古今著聞集』の中に「市原野で牛を殺してその中に隠れ、源頼光を待ち伏せした」という説話が知られています。鬼童丸が源頼光と四天王によって討たれた酒呑童子の子だとする伝承もありますが、酒呑童子が完全に鬼としての姿形で描かれていることが多いのに対し、人の姿のまま描かれることが多いようです。人里から離れた野原に潜む盗賊は鬼であり、角の付いた牛の皮を纏い頭上に掲げる姿は、人ならざるものの象徴でもあるのでしょう。



狂斎百図 牛ハ牛づれ　河鍋暁斎 幕末



和漢美人傳 人麿姫　歌川国輝
弘化4年～嘉永5年（1847-52）



大津絵 鬼の寒念仏
北上市立鬼の館所蔵

幕末に出版された河鍋暁斎の「狂斎百図」には「牛ハ牛づれ」と題して、室町時代の連歌師で角に金箔を貼った牛に乗って洛中洛外を経歴したとされる牡丹カ肖伯老（牡丹花肖柏）、七夕の恋人（牽牛）、天神さまとともに鬼童丸が描かれており、牛と関わりの深い人物として認識されていたことがわかります。

■丑の時参り

丑の時参りは、古くは祈願成就のために丑の時（午前2時頃）に神仏に参拝するものでしたが、後に、嫉妬深い女がねたましく思う人を呪い殺すために呪詛を行うことに転じました。丑寅が鬼が出入りする方位や時間として忌み嫌われる一方、鬼神の力を借りる呪いの時間として定着したものと思われます。頭に鉄輪（3本足の五徳）をかぶり、ろうそくを灯した女性が描かれていますが、鉄輪の足は角であり、鬼となった、もしくは鬼になろうとしていることを示しているのでしょう。般若などと同様に変身譚系の鬼に分類されるものです。

■鬼の寒念仏

大津絵は、東海道大津宿の名物として知られる民俗絵画で、東海道を旅する旅人が土産物や護符として求めたものです。江戸初期に仏画として描かれ始め、次第に世俗画へと転じました。

「鬼の寒念仏」は、僧衣を纏う鬼が偽善者の姿を現しており、衣装や小道具だけを僧侶にしても心が鬼のままであれば、無駄であるということを示しています。大津絵の鬼は、人の愚かさや邪悪さを象徴した存在でもあります。寒念仏の鬼の角は、仏教の三毒である貪欲・瞋恚・愚痴である「我」をあらわしているともされ、片方が折れているのは、我を折ることを教え、鬼からの救いを示唆しているといわれています。

牛鬼 －名おそろしきもの－

妖怪としての牛鬼の伝承は主に西日本に分布しています。頭が牛で鬼の体を持つとされ、その逆の場合もあります。江戸時代の妖怪絵巻では、牛の首を持ち蜘蛛の胴体を持つ姿で描かれ、海岸や淵などの水辺に現れて毒を吐き、人を食い殺すとされる獰猛な妖怪です。古くは平安時代中期に成立されたとされる『枕草子』の148段に「名おそろしきもの」として、その名があげられています。

一方、愛媛県宇和島市の和霊神社の大祭に登場する牛鬼は、神輿の先駆けとして、長い首を打ち振りつつ練りまわる練物（山車）の一種です。青竹を割って胴体のように編んだものをシュロの毛や赤や赤紫の布で覆い、長い首の先に２本の角と大きい口を開く独特な頭がついており、尻尾として剣を象ったものに白い御幣を付けているのは、牛鬼が悪魔祓いの機能を持つ練物であることを示しています。

この練物としての牛鬼がいつごろ、どのようないきさつで現れたのかは不明ですが、和霊神社の大祭は船渡御でも知られ、神輿が御座船で神幸した後、胸丈もある河



牛鬼の面

中を舁いて祭場に担ぎ込まれます。

妖怪である牛鬼と悪魔祓いの機能を持つ練物の牛鬼には、水辺という共通点があり、注目されます。かつて、日本には雨乞い祈願のために牛馬を殺して首などを淵や池に投げ込む習俗が広く分布していたことが指摘されています（筒井2015）。淵や池を動物の穢れた血で汚し、そこを支配する神がそれを嫌って洗い流そうとして雨を降らすことを期待するもので、殺牛儀礼は公式な神事や祭礼ではなく、いわば秘儀に属するものでした。それは、死や血を穢れとして禁忌する日本人にとって、忌むべき行為だったに違いありません。その恐れが、殺牛儀礼の場であった水辺への恐れとなり、妖怪としての牛鬼伝説を生みだしたと考えられます。

練物の牛鬼については、豊臣秀吉の朝鮮征伐の時、牛鬼の形を作って猛獣の来襲を防いだとも、退治した牛鬼を象って練物にしたとも伝えられています。恐らく、御霊信仰に関連する疫神信仰で牛頭天王が各地で祀られたように、牛鬼の恐ろしい力を祀ることで祟りを免れ、平穏と繁栄を手に入れようとしたことが、きっかけでしょう。

練物に付き添う人が竹法螺をブーブーと吹き鳴らすと、一同がヤレヤレヤレヤレとはやすことから、玩具にしたものはブーヤレと呼びます。



太鼓橋と牛鬼　提供：宇和島市観光協会

展示資料一覧

	資料名称	種別	数量	所　蔵
角をいだく生物	ウシ頭蓋骨	標本	1	
	ウシ（三本角）頭蓋骨	標本	1	
	ニホンジカ頭蓋骨	標本	1	
	キリン頭蓋骨	標本	1	
	プロングホーン頭蓋骨	標本	1	
	口之島牛	写真	1	
	ニホンジカ	写真	1	東京動物園協会
	キリン	写真	1	東京動物園協会
	プロングホーン	写真	1	東京動物園協会
	シロサイ	写真	1	東京動物園協会
	シロサイ頭蓋骨写真	写真	1	国立科学博物館
	鬼のミイラ（頭蓋骨・左手）	写真	1	村田町歴史みらい館
鬼とは何者か	牛祭の面（摩多羅神）	仮面	1	
	牛祭の面（赤鬼）	仮面	2	
	牛祭の面（青鬼）	仮面	2	
	黒石寺蘇民際鬼子登り鬼面（阿）	仮面	1	黒石寺
	黒石寺蘇民際鬼子登り鬼面（吽）	仮面	1	黒石寺
	黒石寺蘇民際鬼子登り	写真	1	
	伊手熊野神社蘇民際鬼子登り鬼面	仮面	2	伊手熊野神社
	大峯山役行者画像	掛軸	1	えさし郷土文化館
	鍛冶神（三宝荒神）画像	掛軸	1	個人
	天狗面（猿田彦命）面	仮面	1	月山神社
	月山神社例大祭献膳行列	写真	1	
	天狗面（猿田彦命）面	仮面	1	白山神社
	六日入白山神社献膳の儀	写真	1	
	地獄極楽図	掛軸	1	個人蔵
	地獄図（十王図）	掛軸	1	個人蔵
	木造毘沙門天立像	仏像	1	小名丸毘沙門堂
	孝子善之丞感得傳（上巻･下巻）	和本	2	個人蔵
	比叡山四季講堂慈恵大師御影札	御札	1	個人蔵
	比叡山四季講堂豆（魔滅）大師御影札	御札	1	個人蔵
	比叡山四季講堂鬼大師御影札	御札	1	個人蔵
	比叡山四季講堂角大師御影札	御札	1	個人蔵
	中尊寺西谷大長寿院鬼大師御影札	御札	1	個人蔵
	中尊寺東谷地蔵院鬼大師御影札	御札	1	個人蔵
	満福寺角大師御影札	御札	1	
	月山寺角大師御影札	御札	1	個人蔵

	資料名称	種別	数量	所　蔵
鬼とは何者か	般若面	仮面	1	北上市立鬼の館
	岩崎鬼剣舞面（白）	仮面	1	北上市立鬼の館
	岩崎鬼剣舞面（赤）	仮面	1	北上市立鬼の館
	岩崎鬼剣舞面（黒）	仮面	1	北上市立鬼の館
	岩崎鬼剣舞面（青）	仮面	1	北上市立鬼の館
	邪神面	仮面	1	北上市立鬼の館
	コーラ族儀礼面（メキシコ）	仮面	1	北上市立鬼の館
	ボグド山の主（モンゴル）	仮面	1	北上市立鬼の館
	魔神面（グアテマラ）	仮面	1	北上市立鬼の館
	魔神面（グアテマラ）	仮面	1	
十二支と鬼門	牛虎銅祭案	模型	1	
	天保新選 永代大雑書萬暦大成	和本	1	
	永代雑書	和本	1	
	木造十二神将像	写真	12	（宗）黒石寺
浮世絵に描かれた鬼	源頼光大江山入之図	錦絵	1	北上市立鬼の館
	書画五十三駅 近江土山千方之邪法	錦絵	1	北上市立鬼の館
	九変化ノ内 雷 鳥羽絵 むすめ 尾上多見蔵 水中早かわり 大評判	錦絵	1	北上市立鬼の館
	一魁随筆 朝比奈三郎義秀	錦絵	1	個人蔵
	源頼光朝臣丹波國市原野にて四天王の勇士をもって鬼童丸を退治するの圖	錦絵	1	
	タイトル不詳（鬼童丸）	錦絵	1	
	和漢 準源氏 野わき 市原野鬼童丸 牛皮隠頼光躯	錦絵	1	
	狂斎百図 牛ハ牛づれ	錦絵	1	
	和漢美人傳 人麿姫	錦絵	1	
	大津絵 鬼の寒念仏	大津絵	1	北上市立鬼の館
牛鬼	牛鬼	練物頭部	1	
	太鼓橋と牛鬼	写真	1	宇和島市観光協会
鬼の絵本	だいくとおにろく	絵本	1	
	大工と鬼六	絵本	1	
	鬼っこ人っこ	絵本	1	
	ももたろう	絵本	1	
	いっすんぼうし	絵本	1	
	なおた赤おに	絵本	1	
	すみ鬼にげた	絵本	1	

参考文献

胆沢・江刺先人物語の会編(2002)　胆沢・江刺の先人物語. 本平次男

岩手県立博物館編(1991) 岩手民間信仰辞典. 岩手県文化振興事業団(岩手)

奥州市教育委員会編(2010)　奥州市内訪ね歩き第３集「先人に学ぼう」. 奥州市教育研究所(岩手)

北上市立鬼の館編(2000)　第13回企画展図録「鬼と鉄」. 北上市立鬼の館

少年社編(1993) Books Esoterica 第8号 修験道の本. 株式会社学習研究社(東京)

少年社編(1998) Books Esoterica 第21号 天台密教の本. 株式会社学習研究社(東京)

諸橋轍次(1968) 十二支物語. 大修館書店(東京)

神宮館編輯部編(1952) 天保新選 永代大雑書萬暦大成. 高島易断所本部神宮館(東京)

筒井功(2015) 殺牛・殺馬の民俗学. 河出書房新社(東京)

東北歴史博物館編(2012)　特別展「みちのく鬼めぐり」解説書. 東北歴史博物館(宮城)

中村清兄(1983) 宇宙動物園-干支のルーツを探る. 法政大学出版局(東京)

西角井正慶編(1958) 年中行事辞典. 東京堂出版（東京)

福田アジオ他編(1999) 日本民俗大辞典 上. 吉川弘文館（東京)

水沢市教育委員会編(1993) いさわの仮面展. 水沢市教育委員会

宮家準(1996) 修験道と日本宗教. 春秋社(東京)

山田恵諦(1959) 元三大師. 第一書房(東京)

企画展示協力

伊手熊野神社　宇和島市観光協会　えさし郷土文化館　月山神社
北上市立鬼の館　黒石寺　国立科学博物館　小名丸毘沙門堂
東京動物園協会　白山神社　村田町歴史みらい館
陸中護符研究会（宮本升平）　[敬称略・順不同]

牛の博物館第24回企画展

牛と鬼

会　　期：2016年７月16日(土)～10月16日(日)
主　　催：奥州市牛の博物館
企画展示構成：内田　宏(館長)　後藤　聡(館長補佐)
川田　啓介(主査兼上席主任学芸員)　朴沢志津江(主任学芸員)
高橋　杏奈(学芸補助)　本明　優理(学芸調査員)
小野寺亜希(学芸調査員)
発　　行：奥州市牛の博物館
〒029-4205　岩手県奥州市前沢区字南陣場103-1
Tel 0197-56-7666　Fax 0197-56-6264
E-mail ushihaku@city.oshu.ne.jp
http://www.isop.ne.jp/atrui/mhaku.html
発　行　日：平成28年７月16日

牛の博物館友の会
会員募集中（個人会員・家族会員）
Tel 0197-56-7666　Fax 0197-56-6264

牛の博物館友の会はいつでも、どなたでも入会できます。会員には機関紙や企画展示解説書、行事のお知らせなどをお届けします。会員の特典として牛の博物館に無料で入館できるほか、同伴者割引もあります。